

外科専門研修プログラム

いざ宮崎の革新的な外科大講座へ！
日々是好日へ

募集定員 **10名**
研修期間 **3年**



責任者からのメッセージ



肝胆膵外科学分野
教授 七島 篤志

宮崎大学医学部外科が誇る革新的な大講座制度プログラムに、あなたの若々しい独創性を織り交ぜましょう！私たちの外科プログラムは、全国で唯一、外科全般6領域+形成外科をカバーしつつ、消化器外科を目指す方々には、サブスペシャリティのプログラムが用意されています。我々が所属し、まず専攻医が取得する日本外科学会の専門医制度では、最終的なサブスペすべての領域を統括し、今後はさらに専門領域へと一元管理が拡大される予定です。

外科医の課題には、まず第一に地方での専門医不足がありますが、逆に考えれば、都会の大規模病院に比べて個々のチャンスは多いと捉えることができます。第二の課題は、女性外科医の促進と環境整備です。他の領域と同様に、積極的な管理運営が期待されています。私たちが、職場環境を整え、常にウェルカムな体制を2015年から実践しています。第三の課題は働き方改革で、2024年春からは時間外労働の制限や勤務状況による労働の在り方が一般の労働基準に近づきます。過去の過重労働や無益な労働を解消し、外科医の働き方やワークライフバランスに配慮することが求められます。さあ、若くて才能あふれる皆さん、技術と知恵、未知の能力を兼ね備えたあなたが、地域から世界を支え、発展させていく一員となりましょう！うまくこなせば**日々是好日(ひびこれこうじつ)**な生活も送れる時代になってきました。第四は外科における急速なデジタル技術、高速回線、AIなどの進歩を活用して、これまでの煩わしい雑務や手順を効率化し、本来求められてきた**外科医の生命を救う真の能力を発揮できる**ようになります。グリーン(またはブルー)ジャケットを身につけながら、外科医のみが許される生体に傷を加えることのできる技術からのみ得られる、将来の**謙虚で優れた全人的人格**を形成していくことが大切です。さあ、技術と知恵と、まだ見ぬ外科医としての未知の能力を兼ね備えた若人のみなさん、我々と一緒に世界を地域から支え、発展させていきましょう！

プログラムの特徴

宮崎大学医学部附属病院を基幹施設とし、宮崎県で有数の研修病院・拠点病院・救急病院として知られる複数の病院が連携施設になっています。病院の規模や地域性が異なり、幅広い経験が可能です。宮崎大

学外科専門研修プログラムの関連施設全体での手術総数は約20,000件です。大学院院の手術は軒並み増加しバラエティ豊かに発展しています。分野間の連携が良く、将来何事にも対応できる専門医をめざせます。

取得可能な専門医資格および技能

1階建て部分の外科専門医を3年で取得し、引き続いて2階、3階建て部分の各サブスペシャリティ専門医に速やかに移行していきます。外科医師に求められる基本的診療能力・態度(コアコンピテンシー)と

外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術を習得します。



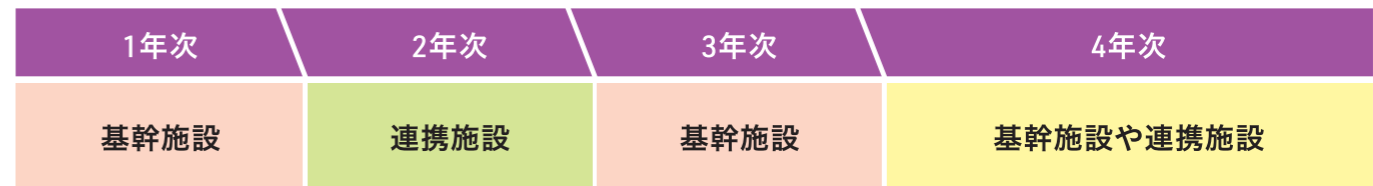
連携施設名等

	施設名	統括責任者	専門分野・特徴
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	七島 篤志 教授	消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科
連携施設	県立宮崎病院、県立日南病院、県立延岡病院、宮崎市医師会病院、都城市医師会病院、宮崎県済生会日向病院、串間市民病院、潤和会記念病院、千代田病院、新行橋病院、古賀総合病院、南部病院、宮崎生協病院、黒木病院、さがら病院宮崎、国立病院機構 宮崎東病院、宮崎善仁会病院、国立病院機構 都城医療センター、小林市立病院		

専門医取得までのタイムスケジュール

外科専門医は初期臨床研修修了後、3年(以上)の専門研修で育成されます。3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。下図に宮崎大学外科研修プログラムの1例

を示します。専門研修1年目は基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設や連携施設での研修です。3年目以降の研修は2年次終了時の達成度合いで、研修内容を検討いたします。



外科専門医研修

サブスペシャリティ領域など専門医研修

大学院コースまたは外科系臨床腫瘍医養成コース

サブスペシャリティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を取得した年の年度初めに遡ってサブスペシャリティ領域専門研修の開始と認める場合があります。

専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。

習得目標及び経験症例数

○ 専門研修1年目

主に大学病院で基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learningや書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌

経験症例 200例以上(術者30例以上)

○ 専門研修2年目

基本的診療能力の向上に加えて、主に関連病院で外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/乳腺・内分泌

経験症例 350例以上/2年(術者120例以上/2年)

○ 専門研修3年目

チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

3年目は原則として宮崎大学病院で研修を行い、不足症例に関して各領域をローテートします。

主要症例名と実績数

宮崎大学医学部附属病院において、外科の年間の退院患者数は約1,200人、外来患者延べ人数は、約12,000人です。手術件数も年間約1,200件ありますので、各分野の症例数は十分に満たします。

院患者数	外来患者延べ人数	手術件数も年間
約1,200人	約12,000人	約1,200件

ココに注目!

現代の患者のニーズでは女性外科医の必要性は年々高まっていて、宮崎大学プログラムはいち早く女性医師が働きやすい環境整備をすすめ、性別にかかわらず就業・キャリア形成ができるよう最善を尽くしています。女性が働きやすい職場こそ男性も働きやすい職場である認識から、共に21世紀の働き方を改革しましょう。

宮崎大学外科講座のロゴマーク

週間スケジュール (宮崎大学医学部附属病院の例)

時間	月	火	水	木	金
朝	カンファレンス	カンファレンス	抄読会、勉強会	カンファレンス	カンファレンス
午前	病棟業務・外来				
午後	外来・総回診	外来			
9:00~	手術				
夕方	放射線診断合同カンファレンス	医局全体ミーティング	内科外科合同カンファレンス 医局全体ミーティング	病理合同カンファレンス	病理合同カンファレンス

指導医からのメッセージ



消化管・内分泌・小児外科
市原 明子

初期研修が無事終了し、これからいよいよの専門に進むか思いを巡らせておられることと思います。一度きりの人生を大きく左右する選択といっても過言ではありませんが、これまでの学生生活や研修医期間の決められたカリキュラムと違って、これからは自分がどんな医師人生を歩んでいきたいか、それぞれの意思で自分の道を築いていくことになります。当外科学教室は大講座制で、各専門分野の先輩たちと一緒に働きながら、自分の関心のある領域をじっくり選ぶことが可能です。また、大学病院と地域の連携病院をローテートする研修プログラムを通して、幅広くバランスの取れた臨床経験を積んでいくことができます。困難を乗り越えながら、一生探求し続けることのできる魅力的な分野と思います。興味のある方、大歓迎です！

先輩からのメッセージ



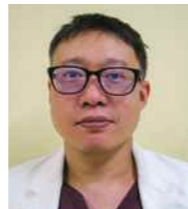
猪俣 麻佑

私自身、学生や研修医時代は見るもの全てが新鮮で、なかなか志望科を決めきれずにいましたが、その中でも手術の面白さに触れ、さらに患者様の体内から自分たちの手で病気を取り除くことができることに医師としての醍醐味を感じて2020年度より入局しました。宮崎大学は大講座制であり、各領域が一同に集まっていることで相談しやすい環境が整っていることが大きな特徴の一つだと思います。温かく、熱心な先生方からご指導いただきながら、外科医として必要な症例経験はもちろん、各科の周術期管理やそれに付随する手技を取得することができ、充実した毎日を送ることができています。外科ならではの強い結束力も魅力の一つですので、ぜひ一度見学に来て、その雰囲気を感じていただければと思います。



肝胆膵外科
濱田 剛臣

大学では大講座制の強みを活かした研修が可能であり、臓器別の高度な手術および術後管理を学ぶことができます。さらに、各分野との垣根も低く、合同手術を行うことも稀ではありません。幅広い経験ができ、必ず自身の糧になります。一方、関連施設では、地域医療を担うため、年齢層も幅広く、common diseaseが多いです。今まで培った知識・技能をさらに昇華させることができ、「患者さんを診る」ことの本質を学ぶことができます。2023年度は5人の先生方がこの研修プログラムを選択してくれました。今、勢いのあるプログラムの一つです。近い年代の先輩がいることは、指導・目標・同志などの面で、非常に大きなメリットです。外科に少しでも興味がある方は一度見学に来てください。



心臓血管外科
川越 勝也

宮崎大学外科では各分野が協力しながら、日々診療に当たっております。また、研修中は各分野をローテーションするため、外科専門医取得に必要な知識と経験を身につけることができます。県内にある多数の連携施設での研修もあることから地域の医療に貢献できるという醍醐味もあります。外科医は、自分の技術をもって患者さんを救う機会が他科に比べて多いと思われれます。そのような外科医に興味があるかたは、是非当科で研修を行ってみてください。指導医の先生方も、大切な後輩であるため一生懸命成長を促してくれと思います。一緒に宮崎の外科医療を支えていきましょう。



千代反田 顕

みなさんこんにちは。私は、久留米大学を卒業後、宮崎大学での研修を経て外科に入局し6年目になります。外科専門医を取得し、消化器外科専門医を目指して日々奮闘しています。当科は大講座制を掲げておりますが、実際に私がいる医局の部屋には心臓血管外科や呼吸器外科の先生も机を並べており、世間話をするなど各分野の距離感がとても近くfriendlyな環境です^^。消化器外科分野でもロボット手術が導入されるなど、術者も日々技術を磨く必要性がありますが、勉強会が定期的に開かれるなど若手の指導にも力を入れてくださっており、先輩方の背中を追いかけながら満足のいく環境で仕事をする事ができています。私は手術室で无影灯の下、手術をされている先生方に憧れて外科医となりました^^。悩んでいる方がいれば相談に乗りますので、是非気軽に連絡して下さい。お待ちしております^^。

お問い合わせ先

T E L : 0985-85-2291
F A X : 0985-85-5563

担当：旭吉 雅秀

e-mail : mhiyoshi@med.miyazaki-u.ac.jp

http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/surgery/

外科HP



診療科の紹介

- 消化管(食道・胃・小腸・大腸)の疾患を取り扱う消化管外科と腹部実質臓器(肝・胆道・膵・脾)の疾患を取り扱う肝胆膵外科の2分野の紹介です。
- 外科学分野を横断的に学んで外科専門医を資格を得たのち、消化器外科専門医の資格取得を目標にこの2分野で研鑽をつんでいきます。
- 症例毎に手術適応、手術内容、術後合併症の対応、全身管理について、カンファレンスを重ね、安全性の高い外科診療をめざしています。
- 各領域で鏡視下手術を積極的に導入しています。
- 2022年よりロボット手術も導入し症例を増やしています。
- 緊急手術や外傷手術も対応しており、救命外科を経験できます。
- 若手の先生がバランスよく効率的に消化器外科に精通できるような丁寧な指導をこころがけています。

取得できる専門医及び技能

消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会専門医、肝胆膵外科高度技能専門医、胆道学会指導医、膵臓学会指導医、大腸肛門病学会専門医、食道学会食道外科専門医、気管食道科学会専門医、日本外科感染症学会外科周術期感染管理医認定医、日本腹部救急医学会認定医、日本Acute Care Surgery学会認定医など資格取得に必要な手術や処置の技術

診療科の紹介

当科では成人心臓疾患(心臓弁膜症、虚血性心臓病など)、先天性心疾患(心室中隔欠損症など)、大動脈疾患(大動脈瘤、大動脈解離など)、末梢動脈疾患、静脈疾患など幅広い疾患を対象に診療を行っています。カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)やステントグラフト内挿術などの低侵襲治療にも積極的に取り組んでいますが、宮崎県の最後の砦として難易度の高い手術や小児・成人先天性心疾患への対応も求められ、最善の治療が提供できるようチーム一丸となって日々の診療に当たっています。県内の関連病院(県立宮崎病院、県立延岡病院、宮崎市郡医師会病院)と共に修練施設群を形成し、計11名の心臓血管外科専門医を配置し、豊富な手術症例数を確保しています。さらなるスキルアップのため国内外のHigh Volume Centerへの留学も行っています。

週間行事・研修に関する行事

月・水曜日は外来。火・木・金曜日は手術。毎週水曜日にハートチームカンファレンス、毎月末の月曜日に成人先天性心疾患カンファレンスを行っています。

取得できる専門医及び技能

外科専門医、外科指導医、心臓血管外科専門医、心臓血管外科修練指導医、循環器専門医、脈管専門医、ステントグラフト実施医および指導医、TAVI実施医および指導医



主要症例名と実績数

2022年の手術実績数

症例	実績数
【肝胆膵外科 96例】	
高難度手術	42
膵頭十二指腸切除術	17
肝切除術	37
【食道外科 67例】	
高難度手術	56
【胃・十二指腸手術 51例】	
高難度手術	14
【下部消化管手術 179例】	
小腸腫瘍・大腸癌	112
炎症性腸疾患	6
【緊急手術 92例】	
内因性疾患手術	75
外傷手術	17



主要症例名と実績数

2021年は223例の手術を実施しました。修練施設群内の過去4年の年間平均総手術数は801例です。

2021年の手術実績数

症例	実績数
成人心臓大血管手術	141
胸部大動脈ステントグラフト内挿術	27例
経皮的動脈弁植え込み術	26例を含む
小児心臓大血管手術	30
小児人工心臓使用手術	20例
腹部大動脈・末梢血管手術など	52

消化器外科

有事即應！臨機応変に対応できる消化器外科医を育てます！

心臓血管外科

人を思いやる温かいハートとハンドで、循環器疾患に立ち向かおう

診療科の紹介

当呼吸器外科では、原発性肺癌、他臓器からの転移性肺腫瘍などの胸部腫瘍性疾患、縦隔の各種疾患、気胸や悪性胸膜中皮腫などの胸膜疾患、胸部の感染性・炎症性疾患(肺結核、非定型抗酸菌症、膿胸など)、胸壁疾患(胸壁腫瘍や漏斗胸)などの外科治療を行っております。当科では、科学的根拠のある、経験に裏打ちされた医療を、安全・確実に遂行するよう心がけております。近年の手術では、内視鏡を使用して侵襲の少ない小さな手術創で行う胸腔鏡下の手術(VATS)を各種呼吸器疾患に広く応用しています。

また令和2年1月より、原発性肺癌に対するロボット支援手術を開始し、質を落とすことなくさらなる低侵襲治療を行っています。

週間行事

月曜日・金曜日は外来日、火曜日・木曜日は終日手術です。検査、カンファレンスは水曜日に行い、また内科、放射線科、病理との合同カンファレンスも行っております。

取得できる専門医及び技能

- 外科専門医(卒後6年)
 - 卒後8年で呼吸器外科専門医
- 呼吸器外科では若い外科医に積極的に肺癌を始めとした手術の執刀をしていただいています。



主要症例名と実績数

肺腫瘍(肺癌を含む)、気管・気管支腫瘍、自然気胸、胸壁腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜疾患、膿胸、横隔膜疾患、胸壁疾患、胸部外傷

2022年の手術実績数

症例	実績数
【呼吸器外科手術数 211例】	
肺悪性疾患	134
縦隔腫瘍	19

診療科の紹介

小児外科は先天性疾患(鎖肛や食道閉鎖、Hirschsprung病など)、未熟児の消化管穿孔といった新生児・乳児疾患から、虫垂炎や腸重積などの救急疾患、重症心身障害児への外科的介入、小児がんに至るまで幅広い疾患を対象として診療を行っています。頸部から肛門に至るまで、呼吸器、消化器、生殖器、軟部組織と幅広い臓器を扱えるのが大きな魅力の一つです。

また機能的な予後を長期にわたりフォローすることから、診療に携わった子どもの成長をご家族と一緒に実感することができます。この喜びは小児外科に特有のものです。

週間行事

定例手術は金曜日に行っています。外来は火曜日と木曜日です。毎週月曜日と水曜日は消化管・内分泌・小児外科のカンファレンス、火曜日と木曜日は肝胆膵外科のカンファレンスに参加します。また必要に応じて小児科や産科、新生児科とのカンファレンスも行います。

取得できる専門医及び技能

外科専門医、外科指導医、小児外科専門医、小児外科指導医、小児がん認定外科医、新生児認定外科医



主要症例名と実績数

2022年の手術実績数

症例	実績数
鼠径ヘルニア手術	34 (うち腹腔鏡手術14例)
胃食道逆流症に対する腹腔鏡下噴門形成術・胃瘻造設術	7
停留精巣固定術	6
植込型中心静脈カテーテル留置	6
臍ヘルニア根治術	5
漏斗胸に対する胸腔鏡下胸骨挙上術(Nuss法)	4
鎖肛(高位及び低位)根治術	3
新生児腸瘻・人工肛門造設(穿孔、高位鎖肛など)	2
小児固形悪性腫瘍手術	1
腸閉鎖症手術	1
腹腔鏡下胆道拡張症手術	1
横隔膜ヘルニア(遅発性)根治術(腹腔鏡下)	1
腹腔鏡下腸回転異常症手術	1

総計90件
うち新生児症例7件(8%)、腹腔鏡・胸腔鏡下手術32件(36%)

診療科の紹介

乳癌は女性の悪性腫瘍の中で最も頻度が高く、しかも40代後半から60代と働き盛りの世代に多い疾患です。しかしながら、宮崎県では乳腺外科の医師が少ない現状です(乳腺専門医は11名。全国で38位)。

当科では、画像診断(マンモグラフィやUS)、針生検などの基本的な乳腺診療から手術、化学療法まで全てを行っています(がんゲノム医療や妊孕性の問題も取り組みやすい環境です)。女性の方は、結婚後や子育て中でも、乳がん検診を行うことで乳癌診療に貢献することができます。また、通常、術後に大きな合併症はありません。

乳癌に対して薬物療法も行っていますが、薬剤の進歩により最近では著効例も多く、この点もやりがいを感じることが出来ます(CDK4/6阻害剤や新規抗HER2薬など)。

研究面では化学療法の有害事象について、個体差が生じる分子メカニズムの解明をテーマに少しずつですが取り組んでいます。

主要症例名と実績数

昨年、68例の乳癌手術を行いました。大学ではリスクが高い症例や高齢者が多い関係で乳房切除術が多くなっています。また、リンパ浮腫のリスクの少ないセンチネルリンパ節生検(色素とRIとの併用)を多くの症例(45例)で行っています。

また、乳房の整容性を保つために、乳房温存部分切除術(放射線照射を要します)や形成外科と合同で乳房同時再建(3例)を行っています。加えて、昨年は延べ300例以上の化学療法を行いました。



取得できる専門医及び技能

外科専門医、乳腺専門医やその前段階の乳腺認定医が取得可能です。また、マンモグラフィ読影医やがん治療認定医を取得するサポートを行います。2022年より日本専門医機構でも乳腺外科はサブスペシャリティ領域として認定されました。

2022年の手術実績数

症例	実績数
【乳腺悪性腫瘍手術 68例】	
乳房温存部分切除+センチネルリンパ節生検	16
乳房温存部分切除+腋窩廓清	1
乳房切除+センチネルリンパ節生検	27
乳房切除+腋窩廓清	17
その他の乳腺悪性腫瘍手術	7
乳腺腫瘍摘出等	8
その他(リンパ節生検等)	6
	計84例

診療科の紹介

当内分泌外科では主に甲状腺腫瘍(甲状腺癌や良性腫瘍)とバセドウ病、副甲状腺病変に対して外科的治療を行っています。各科と連携し患者さんの状態や疾患の状況を十分に評価した後外科的適応を評価します。

当科では、通常の手術だけでなく進行症例や重度の併存疾患を有する症例においても対応しています。特に心臓血管外科や呼吸器外科と連携し高度浸潤症例においても積極的に手術介入を行っています。

また整容性の向上に努めるためにも近年は鏡視下手術を導入し行っています。術後の傷が目立たず患者さんからの高い満足度がえられています。

都市部との治療格差がないよう常に最新の知見を意識しながら最高の診療を提供できるように努めています。

取得できる専門医及び技能

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本内分泌外科学会専門医・指導医



主要症例名と実績数

2022年の手術実績数

症例	実績数
【甲状腺手術 57例】	
甲状腺癌手術	34
甲状腺良性腫瘍手術	10
バセドウ病手術	13
うち鏡視下手術	7
【副甲状腺手術 5例】	
副甲状腺腫瘍	5